

「やまかいどう」は埋蔵文化財センター建設時に発掘調査を行った敷地内の「山海道遺跡」にちなんで命名されました。

栃木県埋蔵文化財センターだより

やまかいどう

手作り土器で古代米を食べる



国分寺町立国分寺西小学校総合的な学習の時間「古代米を育てよう！」より(6・7ページで活動の様子を紹介しています。)

特集1 縄文時代の衣食住

特集2 国分寺町立国分寺西小学校
総合的な学習の時間 古代米を育てよう！

発掘現場の最新情報！発掘現場レポート

とちぎ考古学最前線～寺野東遺跡の話～

志賀かう子コラム わたしの愛唱詩から～「美しい國」永瀬 清子～

No.
38
2005.1

特集1

縄文時代の衣食住

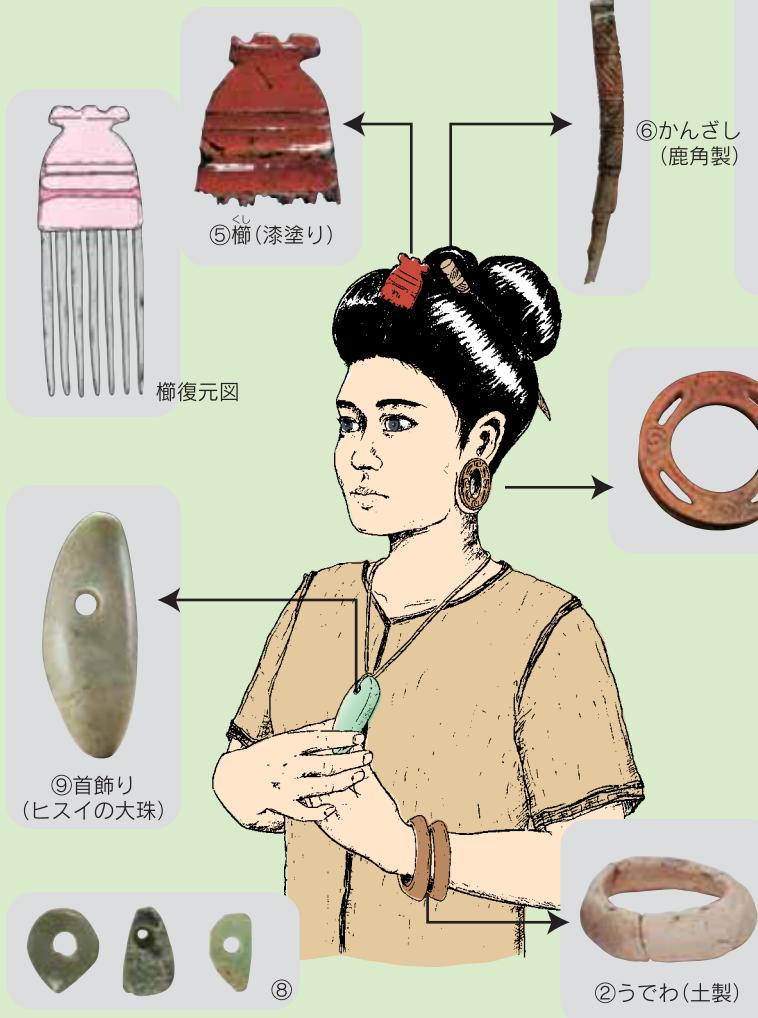
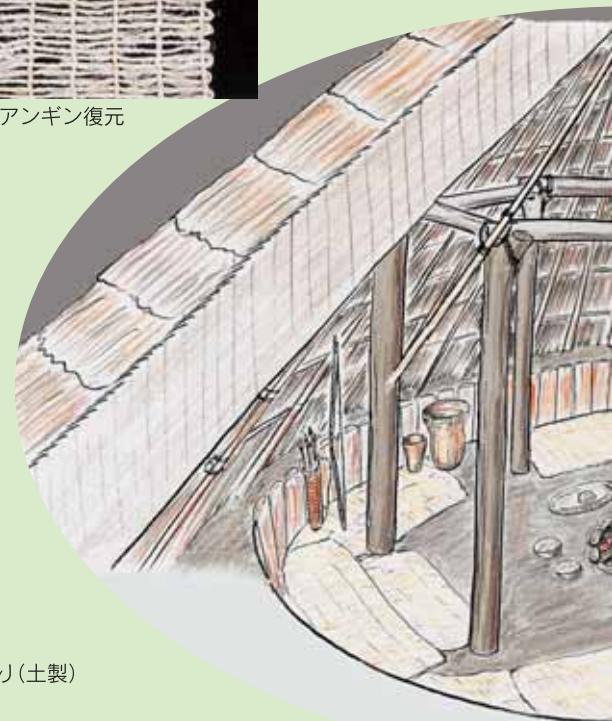
旧石器時代から古代（奈良・平安時代）にかけての衣・食・住に関する歴史をシリーズで紹介します。今回は縄文時代の「衣」と「住」について紹介します。

縄文時代の「衣」

衣食住のうち、衣については考古学が最も苦手とする分野です。服について推測できる資料は、ほとんどが腐ってしまうため、見つかっていません。断片的に見つかった資料や土器の底に残されている圧痕から、縄文時代の服は「越後アンギン」の編み方と同じ技術によることが考えられています。



アンギン復元



④耳飾りをつけている土偶

身に付ける装身具としては、いくつかの種類のものが見つかっています。装身具の中には、お墓に副葬されるもの（場合）もあります。

耳飾りは、北関東の後期後半から晩期にかけての遺跡で多く見つかります。しかし、常に付けていたものか、男女とも付けていたものか、ムラの中のすべての人気が付けていたものか、分かっていません。また、「大珠」と呼ばれる首飾りの多くは、近くでは採れない貴重な石を用いています。

①～④藤岡町・藤岡神社遺跡（写真提供：藤岡町教育委員会）
⑤～⑧小山市・寺野東遺跡
⑨栗山村・仲内遺跡

縄文時代の「住」

埋蔵文化財センターの発掘調査でも、縄文時代の住居跡は多数見つかっています。しかし調査では、竪穴の掘り込みや柱穴等の、地中への掘り込みしか確認できず、壁や屋根については推測の域を出ません。つまり、「住」についても、推測できる情報は極めて限られています。

今日まで栃木県内で見つかった縄文時代の住居跡にも、時期や地域により違いのあることが確認できます。ここでは、草創期（約1万2000年前）から晩期（約3000年前）までの代表的な住居跡を示しました。

掘り込みの形だけではなく、主な柱穴の位置や数も、時期・地域により特徴があります。中期末以降では、入り口が明確に作られる例が多くなります。また、ほぼ同じ時期のムラの中にも異なるタイプの住居が作られる場合もあります。

時期で変わる住居跡

草創期



宇都宮市・野沢遺跡

早期



宇都宮市・山崎北遺跡

前期



宇都宮市・野沢遺跡

中期



那須塩原市・槻沢遺跡（写真提供：那須野が原博物館）

後期



壬生町・八剣遺跡

晩期



藤岡町・藤岡神社遺跡（写真提供：藤岡町教育委員会）

炉

炉跡も時期や地域により違いがあります。中期後半の栃木県北部から東北地方にかけては、複式炉と呼ばれる特徴的な炉が設けられます。土器を埋設しているところと、この手前の石を敷き詰めている部分からなるものです。



複式炉 那須塩原市・槻沢遺跡（写真提供：那須野が原博物館）



縄文ムラの風景

2004年 発掘現場 レポート

当センターが発掘調査している現場から、最新の情報をご紹介します。
発掘現場を見かけたらどうぞ声をかけてくださいね。

遺跡には
ロマンがいっぱい
つまっています

1

中島笠塚遺跡7区・8区(宇都宮市)

この遺跡は、北関東自動車道宇都宮・上三川インターの北側にあります。この付近の様子がわかる方なら、最近できた百貨店の北東と言った方がわかりやすいかもしれません。古墳時代中期～後期(約1500年前)の古墳が多い遺跡で、発掘調査は平成12年度から行っています。今年度調査をしているのは7区と8区の2ヵ所で、8区は昨年度に古墳6基などを調査した6区のすぐ南側、7区は6区から少し北に離れたところにあります。

8区では、古墳が3基確認されました(写真①)。調査前は水田だったため、墳丘(土を盛った高い部分)は削られてしまい、周溝(古墳のまわりに掘られた溝)だけが残っていたものです。北端(右端)の白線が引いてないのは6区の古墳で、直径24mの円墳を中心に3基の小さな円墳が作られていたことがわかっています。8区もすべて円墳で、直径は一番南側(写真左)が16m、中央が20m、その右下に少しだけ見えるのが3基目でこれが18mです。南端と中央の古墳の間は10mほど離れていて、ちょうどここに掘立柱建物跡2棟があります。掘立柱建物跡の年代ははっきりしませんが、柱穴の土の様子などから古墳と近い時期の可能性があります。これまで調査した中島笠塚遺跡の古墳は、周溝同士が接するように作られていることがほとんどで、この2基の古墳の間だけ離れているのは大変不自然です。古墳を作る前に建物が建ててあったか、あるいは建物を建てるのを予定して古墳を作ったということが考えられます。建物が何のためのものなのかは発掘では明らかにできませんが、古墳のすぐ近くにあることから殯屋(亡くなった人の遺体を埋葬する前に安置しておく建物)のような使われ方が考えられるでしょう。



①8区(東上空から)



②7区(南上空から)

7区には墳丘が残っている古墳3基があり、このうち1基の調査が終了しました(写真②)。直径約23mの円墳で、周溝からは多量の土器が出土しています。中央に遺体が埋葬された施設があったと思われますが、1500年ほどたつ間に墳丘の一部と一緒になくなってしまったらしく、発見できませんでした。古墳の周囲には、大きな竪穴住居跡や掘立柱建物跡などがあります。住居跡は古墳より100年ほど新しい時期に作られたものです(写真③)。一辺が10m以上と大きいことから一般的の住居跡ではなく、位の高い人の家か、あるいは公共的な役割をもつ建物の可能性があるでしょう。古墳のすぐ近くに建てるわけですから、もしかしたら古墳に埋葬された人物と関係がある人が住んだのかもしれませんね。



③7区竪穴住居跡(東から、奥が古墳)

2

おなべまえいせき 小鍋前遺跡(南那須町)

小鍋前遺跡は、前回紹介した北原遺跡からは南に約1.5km、JR烏山線の大金駅と小塙駅の間に位置します。烏山線のすぐ隣を調査していますので、少しですが、列車の窓から見ることもできます。北側には荒川が流れていますが、ここから20mほどあがった台地の上に遺跡があります。11月末日現在で、縄文時代の竪穴住居跡が2軒、奈良時代から平安時代の竪穴住居跡が45軒、掘立柱建物跡3棟、井戸跡2基、縄文時代から平安時代までの土坑や小穴などが約850基発見されました。また、土器や石器などの遺物は収納箱で約160箱あります。縄文時代の土坑のなかには、袋状土坑とよばれる遺構がたくさん発見されています。小鍋前遺跡から発見された袋状土坑は開口部が狭く、底の部分が広く平らになっていて、横から見ると、理科の実験でつかう三角フラスコに似ていることからフラスコ状土坑ともよばれています。この遺構は、秋に収穫した木の実などを貯蔵するための施設と考えられています。土坑の中からは縄文時代中期の深鉢形土器などもたくさん発見されています。縄文時代の遺構としては、このほかにイノシシなどを捕らえるために掘った陥し穴なども発見されています。



空から見た遺跡(北上空から)

3

かないきたいせき 金井北遺跡(市貝町)

昨年の10月から、市貝町市塙で金井北遺跡と前原遺跡の発掘調査を進めています。この調査は、通称宇都宮一茂木バイパスの建設に伴うもので、西側丘陵上の金井北遺跡から着手しました。この遺跡は小貝川を挟んで市貝町役場を望む丘陵に立地し、これまでに縄文時代の陥し穴と考えられる穴が10数基、平安時代初め頃の竪穴建物跡3軒、当時の墓穴2基などを発見しました。

陥し穴の多くは、長さ2m程度の楕円形で、深さ1.5m位です。下半分がややすぼまり、底面は幅の狭い楕円形や長方形になります。これらが丘陵の尾根に沿って点々と並んでいました。平安時代初め頃(約1200年前)の火葬墓は、丘陵の平坦面に造られていました。墓穴は、直径1.2mの円形の浅い掘り込みで、中心をさらに一段深く掘りくぼめたものです。その中には須恵器の蔵骨器(骨壺)が納められていました。直径30cmの、大型の壺です。蓋が付いていたため内部に土が入らず、真っ白な火葬骨が埋葬当時のままの状態で保存されていました。壺の傍らには、蓋付きの須恵器の壺(お塚)が添えられており、ここにも骨の粉が入っていました。



発見された火葬墓

4

ざこざわいせき 寂光沢遺跡(岩舟町)

これは空から撮影した写真ではありません。北関東自動車道開発地区内の山腹から見下ろしたもので、寂光沢遺跡はこのような山の中にあります。古代人が住んだ集落遺跡は、もっと平原などころにあるものですが、当時、焼き物を作るためには大量の燃料(薪)が必要なので、このような場所にあるのです。ここでは以前から、須恵器や屋根瓦の破片が多数出土することが知られていたため、発掘してみた結果、それを焼いた窯と土器捨て場が発見されました。写真中央の人が立っているところには、窯の跡が残っており、赤く焼けた土が見えています。当時の窯は炎が吹きあがるように、斜面に作られ、その下には焼き損じを捨てた、土器捨て場が広がっています。灰や炭がたまっているので灰原(はいばら)とも呼ばれます。遺物のかたちから、西暦8世紀から9世紀にかけて窯が営まれたと考えられますが、詳しい様子は発掘が進んでからお知らせできると思います。



遺跡遠景(南から)

特集2 古代米を育てよう！

〈国分寺西小学校総合的な学習の時間〉

国分寺町立国分寺西小学校6年生が総合的な学習の一環で「古代米を育てよう！」をテーマに活動を行いました。国分寺西小学校は埋蔵文化財センターから1kmほど北にある地元の学校です。埋蔵文化財センターでは、実際に煮炊きするための土器づくりのお手伝いをしました。ここでその活動の様子を紹介します。



7月14日(水)

学校の裏の畑を耕して作つた田んぼで田植えをしました。古代米の苗は春のうちに種取りをし、発芽まで自分たちで育てました。なかなか芽が出ないので田植えが遅くなつてしましました。田んぼの中にまだして入ると泥が気持ちいい。だけど動きづらいからひとつひとつ手で植えつけるのがひと苦労です。しりもちつかないよう気を付けて。



8月10日(火)

今日は、埋蔵文化財センターで土器づくりです。実際に煮炊きする土器を作ることで、本来の巻きあげ方式ではなく板状にのばした粘土を型にかぶせて作ることになりました。センター内を見学した後、センター職員から土器の説明をしてもらいました。その後、セントラル窯で窯火が点火され、窯で焼成されました。窯火は古墳時代に使われていた鶴と甕となる窯火です。よいよ土器焼きです。



9月22日(水)

暑い夏がやっと終わりました。夏休み中は田んぼに水やりのため、当番で稻の様子を見に来ています。今日は夏休みに作った土器を焼成しました。職員の指導のもと、窯に土器を入れ炭を詰めて一日かけて焼き上げました。この日は台風が接近中で風が強くてなかなか窯に火が点きませんでした。稻も台風でやられはしないか心配です。



10月25日(月)

稻の実が黒くなつてきました！やつとの日がきました！稻刈りです。本格的に石包丁を使っての作業です。石包丁は古代人が稻を刈るために使つた道具です。実の部分を摘んだあとは、鎌で稻を刈りはせ木に干しました。実は乾燥させたあと、割り箸を使つて脱穀をし、自分たちで工夫しながら粉すりをしました。ペットボトルに入れて棒で突いたり、手ですつてみたりと悪戦苦闘して、なんとか食べられる状態になりました。



11月2日(火)

今日は、父兄を招いての「総合的な学習の時間」の発表会西小フェスタの日。古代米について調べたことや、古代の人々からのおくりものを発表しました。劇では稻作を苗植えから収穫、そして家庭の食卓にあがるまでを古代版と現代版とを演じました。どちらも最後には家族そろって食卓を囲む場面で終わります。古代と比べると道具や生活は変わったけれど、これだけは変わらないものであつてほしいですね。

11月10日(水)

とちぎ考古学最前線②

寺野東遺跡の話

遺跡から多くの事を学ぶことができる。今回は寺野東遺跡。この遺跡から多くのことを学び、私の思いこみ・先入観は、見事にくつがえされたのである。

まず、第一の思いこみ。「山地の多い本県北部と比較して、低地が中心の南部には縄文時代中期の大規模な遺跡は少ない」というもの。山には縄文人を支える豊かな森がある。那須地方には、縄文時代中期の大規模な遺跡が多い。これが縄文時代の南北問題。この思いこみは寺野東遺跡の調査で見事にくつがえされた。遺跡は茨城との県境近くの小山市梁に所在し、遺跡の東には田川が南流し、田川と平行して台地が南に延びる。この台地の東端に遺跡は立地している。調査は工業団地造成に伴い平成2~6年まで実施された。まず、遺跡の南側に縄文時代中期前半から後半(4600~4300年前)に大きなムラが造られる。ムラは谷を望む緩い台地~斜面に径南北約250mの範囲に形成される。発見された竪穴住居跡は109軒。環状に巡る住居の内側から主に袋状土坑と呼ばれる貯蔵穴が約800基ほど発見されている。県内でも最大規模のムラの一つである。私の思いこみは見事にくつがえされたのである。この思いこみを調査担当者のEさんに話したら、彼にはそんな先入観はもっていないと一蹴された。私の独りよがりの思いこみであったらしい。

第二の思いこみは「縄文人は大規模な土木工事はしない」というもの。自然にうまく適応して生きるのが、縄文人のイメージ。これは縄文人の行動的一面を的確に捉えたもの。しかし、時には私たちの想像を超える遺構を、縄文人は造る。それが環状盛土遺構である。縄文時代後期初頭(約

4000年前)、中期のムラの一画に斜面を切り開いて水を溜めて植物製食糧を調理する水場の遺構が造られる。この遺構の北に、環状盛土遺構が後期前半から晩期前葉(約3800~2800年前)まで造られる。この遺構は縄文人が環状に土を盛って造った。大きさは南北約165m、幅15~30mと巨大なもの。積みあげた土は盛土内部から削り、総量は6トントラックで1000台分と推定される。調査担当者は、住居を造るための盛土と推定している。この発見は、多くの研究者の先入観と私の思いこみをくつがえすことになった。

第三の思いこみは「縄文人の食糧生産は自給自足が原則」という縄文人の食糧生産に対するもの。当然、巨大な貝塚で生産された干し貝(塩分補給)は自給の範囲を超えた交易品と考えられよう。貝塚は例外で、食糧の自給は縄文人の大原則。この先入観をくつがえしたのが、木組遺構である。この遺構も後期前半から晩期中葉までの約1000年間、環状盛土遺構の西に接した小さな谷に造られた。調査では14基の木組遺構を発見。この遺構は多様な構造を示すが、使用された材の9割以上が加工の容易なクリ材である。木組遺構の周囲からは多量のトチノミなど植物の種や皮が発見された。木組遺構は湧水点近くの流路に造られることや多量の種や皮が出土したことから、木の実のアケを抜くための施設と推測。私には、この木組遺構で加工された木の実は、自給の範囲を超える量と考えている。縄文時代の食糧工場か?ここでも私の思いこみは、見事にくつがえされたのである。

(調査部長 橋本 澄朗)

わたしの愛唱詩から

志賀 かう子

美しい國 永瀬清子

はばかりることなくよい思念を
私は語つてよいのですつて。
美しいものを美しいと
私はほめてよいのですつて。
美しいものへ悲しみを
失つたものへ悲しみを
心のままに涙ながしてよいのですつて。
心のままに涙ながしてよいのですつて。

はばかりることなくよい思念を
私は語つてよいのですつて。
美しいものを美しいと
私はほめてよいのですつて。
美しいものへ悲しみを
失つたものへ悲しみを
心のままに涙ながしてよいのですつて。
心のままに涙ながしてよいのですつて。

敵とよぶものはなくなりました。
醜とよぶものは恩人でした。

私は語りませう語りませう手をとりあつて。
そしてよい事で心をみたしませう。

あ、長い／凍えでした。
涙も外へは出ませんでした。

心をだん／暖めませう。

夕ぐれて星が一つづつみつかるやうに
感謝といふ言葉さへ
今やつとみつけました。

私をすなほにするために
貴方のやさしいほゝえみが要り
貴方のためには私のが。

あ、夜ふけて空がだん／にぎやかになるやうに
瞳はしづかにかゞやき合ひませう
よい想ひで空をみたしませう
心のうちに
きらめく星空をもちませう。

今からそう遠い昔ではない1941年(昭和16年)から4年近くも、日本がアメリカ、イギリスなどと戦争をしていたことを記憶している人の数は、もうほんとうに少なくなってしまった。

「欲しがりません勝つまでは」の標語を、子どもから大人までお腹に唱えて自分を励ましつづけ、ひもじくても歯をくいしばってがまんをし、ましてやきれいな服を着たい願望も胸に押し込め、おべんとうをこざえて家族でピクニックに出かけることも、たのしくスキップして野原で遊ぶことも諦めていた、そうした暗黒の時代を作り上げていたのが戦争だった。

戦地で父や兄が命を落としても、心から悲しみを表現することさえはばかり、言論がことごとく統制された中で、「戦争は止めてくれ!」と叫ぶことはおろか、反対の考えを陳述することなどは許されない時代だった。

敵の飛行機による爆撃が日常となれば、灯火管制といって夜の室内に電灯を灯すことは制限され、電球を黒い布で覆う。読書も復習も食事も暗い灯りの下でひっそりと行わなければならなかつた。爆弾が投下されてその直撃や震動でガラス戸が飛び散るのを防ぐため、ガラス戸すべてに細く切った和紙を十文字に貼り付け、だから太陽光線を部屋いっぱいに迎え入れることは叶わないのだった。

その「長い／凍え」のトンネルから抜け出たよろこびを、永瀬清子はかくもみずみずしく、清明なひびきをもってうたい上げたのだった。悲しみを経験した人の、涙の零までキラキラ光って見えるような、美しくて力強い詩ではないだろうか。現代詩壇の高峰をきわめた詩人59歳、昭和20年の作。詩人は今から2、3年前に90余歳で他界した。

「戦跡考古学(注)」という学問分野につき、私は近頃になりはじめて知った。物質的遺物から人類のはるかな過去を知るだけではなく、身近な過去が風化する前に検証する重要性を、即学間に取り入れたものだ、と私は理解した。そのことは、美しいこの詩に触れるときも胸をよぎるのである。

(注)戦跡考古学…戦争遺跡・遺物を考古学的に調査・研究するもの。沖縄県の考古学研究者、當眞嗣一氏が提唱。

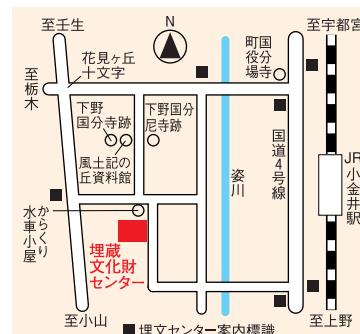
編集後記

特集2の国分寺西小学校「古代米を育てよう！」では、活動を通して、学校の先生や生徒のみなさんと交流をもち、楽しい時間を過ごすことができました。これからもいろいろな形で学校の活動のお手伝いができたらいいなと思います。

発行 栃木県教育委員会
宇都宮市塙田1-1-20 TEL. 028(623)3425

編集 財団法人とちぎ生涯学習文化財団
埋蔵文化財センター
〒329-0416 栃木県下都賀郡国分寺町大字国分乙474
TEL. 0285(44)8411(代) FAX.0285(44)8445
E-mail webmaster@maibun.or.jp
URL http://www.maibun.or.jp/

印刷 ヤマゼンコミュニケーションズ(株)



《埋蔵文化財センターへのご案内》

- JR小金井駅から 約4km、車で約10分
- 東武壬生駅から 約6km、車で約15分
- 東武栃木駅から 約9km、車で約20分